

マイエコー，買っちゃいました

岩倉 亮

兵庫医科大学ささやま医療センター整形外科

整形外科医として4年目を迎えた年に、私はプロサッカーチームのチームドクターとしての仕事に従事することになりました。スポーツの現場で選手とかかわる仕事がしたいと思い整形外科医になった私は、この仕事をするのを非常に楽しみにしていました。

スポーツ現場での仕事が始まり痛感したこと、それは整形外科医としての無力さです。現場に行きたての頃は、初期対応しかできず、私は選手、スタッフに「病院に行って検査しましょう」と言わざるを得ない状況でした。瞬時の判断が結果を左右するプロの世界では、怪我をした選手に対してドクターの判断が間違えば、選手やスタッフからの信頼を失うことになります。プロチームのクラブハウスに併設された診療所には、単純X線検査やCT、MRIがすぐに行える設備が整っているところもありますが、私が従事していたチームには検査を行えるツールがありませんでした。限られた状況の中で診療レベルを上げるために何が必要か考え、マイエコーを買う決断をしました。

エコーを使い始めると、リアルタイムに選手・スタッフに病状を説明し、なぜ病院での検査が必要かを伝えることができます。診断がついた後も経過観察や注射などの治療の場面で役立ち、現場で迅速な対応が可能となりました。大した怪我でない場合でも、画像で問題ないことを確認すれば選手は安心します。エコーを導入した後は、選手・スタッフとのコミュニケーションも取りやすくなり、信頼関係を築き上げることができたと思います。

日常診療の中でも同じことですが、医者が診察と検査を同時に行える唯一のツールであり、直接目にみえることで患者満足度も高くなります。マイエコーを買った当初は「マイエコー，買っちゃいました」と感じていましたが、現在は「マイエコー，買ってよかった」と強く感じています。

